

共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第27号(年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月～金曜日午後1時～4時迄

「豊かな知恵や人生経験に期待して」

狭山市教育委員会 学校教育部次長兼教育指導課長 田中 義久

今から30年ぐらい前に、先輩から、「お」の存在という話を聞いたことがあります。「今は、『おふくろの味』がなくなって冷凍食品やレトルト食品等の『ふくろ(袋)の味』に変わり、その『お』はどこに行ったかと言うと、『しつけ』の前について『おしつけ』になった。」と。30年経った今もあまり変わっていないような、、、

子供たちが生活全般のマナーや道徳を身に付け、社会生活の秩序を守り、社会人として自らの生活を向上させる力を身に付けていくことは、必要なことであり、私たち大人の責務になります。この「しつけ」を効果的に行うためには、子供たちの成長段階に応じて、学校、家庭、地域がそれぞれの立場から適切な方法でしつけていくことが重要です。

こうした中で、SSVCの皆様のご支援は、子供



たちの学力向上だけでなく、健やかな成長や自立にとって大いに期待できるものと捉えております。SSVCの皆様が子供たちと関わっている様子は、大人の都合で子供の行動を制限するような「おしつけ」ではなく、

子供たちの「意欲」や「できたこと」等を褒めて、認めて子供たちの自尊心を育んでくださっております。同時に、その関わり合いの中で生活全般のマナーや道徳も教えてくださっております。豊かな知恵や人生経験をお持ちのSSVCの皆様からの教えは、子供たちにとって大変重みがあり、貴重な体験となっております。今後も様々な教育活動でより一層の温かいご支援をお願い申し上げます。

出番到来に、満を持す

SSVC事務局長 猪股 英行

年明けと共に始まった「ウイルス禍」の拡大を阻止するために、狭山市教育委員会は3月から公立小中学校全23校の休校措置を執りました。SSVCの300名を超すメンバーがこれらの全校で何らかの学習支援に携わっており、例年であればお礼の会や卒業式に招かれ、子供たちの成長を直接目にするのですが、今年は行事そのものが取り止めとなり、子供たち・先生方・保護者はもちろん、我々にとってもけじめがつかない、異例の年になりました。新年度になってもウイルス禍が収まらない中、6月に学校は再開されましたが、先生方は子供たちを三密状態から守る対応に手一杯で、高齢者が多くて万が一感染した場合の重篤度が高いSSVC支援者の受け入れには二の足を踏んでいるようでした。

されば、2学期(8/18日始業式)になれば少しは状況が落ち着き、学習支援の出番が来るだろうと満を持していたのですが、8月に入ってから再び全国の感染者数が増大したことから、我々シニアが直接子供たちと向かい合う形での支援は遠のいています。



校長先生 こんにちは 26

「ボランティアの方々と共に作る子供の学び」 御狩場小学校 校長 鈴木 眞澄

狭山台中に勤務していた頃、校内にSSVCの事務局がありました。他県から視察に来られた方の「わが子を狭山市で学ばせたいと思った」という感想が印象的で、私の子供もさやまっ子でしたので嬉しくなったのを覚えています。

その子供が高校生の時、こんなことがありました。「70万人体験活動」で中学生支援に訪れた際、校内に掲示してあったボランティアさんの写真を見て「自分が小学生の時に『中東には浮き輪がなくとも体が浮く湖がある』って教えてくれた方だ。」とすぐに気づき、実際に湖に浮かんでいる写真も見せていただき、憧れを抱いたことも思い出したそうです。

機会あって、このことを当のボランティアさんにお伝えしたところ、「ああ、塩分濃度の高い死海の話をしましたねえ。覚えていてくれてよかった」と話されていました。



親としても、子供の心に長く残る教えを頂けたことは大きな喜びでした。この方は「大正生まれの自分が令和の子供の授業支援をしています」と話されるほど、現在もご活躍中です。

世代を超えて知識や経験を伝える営みは、核家族化の今の時代にこそ必要です。支援員さんたちと子供たちの触れ合いの中で生まれる笑顔には、私たち授業者から見ても格別なものがあります。

これからも「共に作る学び」の在り方を一緒に考えながら、様々な教育活動にご支援を頂きますようお願いいたします。



地域と共にある学校支援とアクティブ・ラーニング

狭山市学校支援ボランティアセンター長 諸井 寿夫

新型コロナウイルスの影響で休校が続き、気になるのは子供たちの「学習の遅れ」です。それに輪をかけて、今年度（2020）より始まった学習指導要領の大きな改訂です。小学校における大きな変更点としては、英語と道徳が教科として導入され、またプログラミングの授業が行われることになっています。この新学習指導要領では「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」それらを明確に追求しています。つまり、知識を学ぶだけでなく、それをどのように活用するかを考え、「何のために勉強をするのか」という意識を持ち、アクティブ・ラーニング（主体的、対話的で深い学び）の方法で授業は行われ、生涯、能動的（アクティブ）に学び（ラーニング）続けることを目指しています。ご存じの通り、大きく変化している世の中に対応して、子供たちが将来を生きていくために、身につけたい大切なことで、本当に素晴らしい教育改革であり、この変化を期待したいと思います。

そして最も大切なことは、これらを実現させることです。それには学校だけに全てを任せるのではなく、家庭、地域、全ての連携が必要になると思います。

この教育のスタンスは、子供たちの意欲や好奇心を第一に、励ましながら支援、質問に答え、考えさせることが重要で、つまり、人間の強みとは、「与えられたことに従うだけでなく、自分で考え工夫ができる力」と言えるようです。子供は、「誰かにさせられている」と感じるよりも、「自分の意志でやっている」と感じるほど、より能動的に物事に向き合い、「やる気」も高まるようです。世界の動向を視野に取り入れた教育改革をポジティブに捉え、是非、今までの経験、知識を基にSSVCの豊富なパワーで、この新たな教育と一緒に学び、体験しながら、サポートしていくことがとても重要と思われれます。

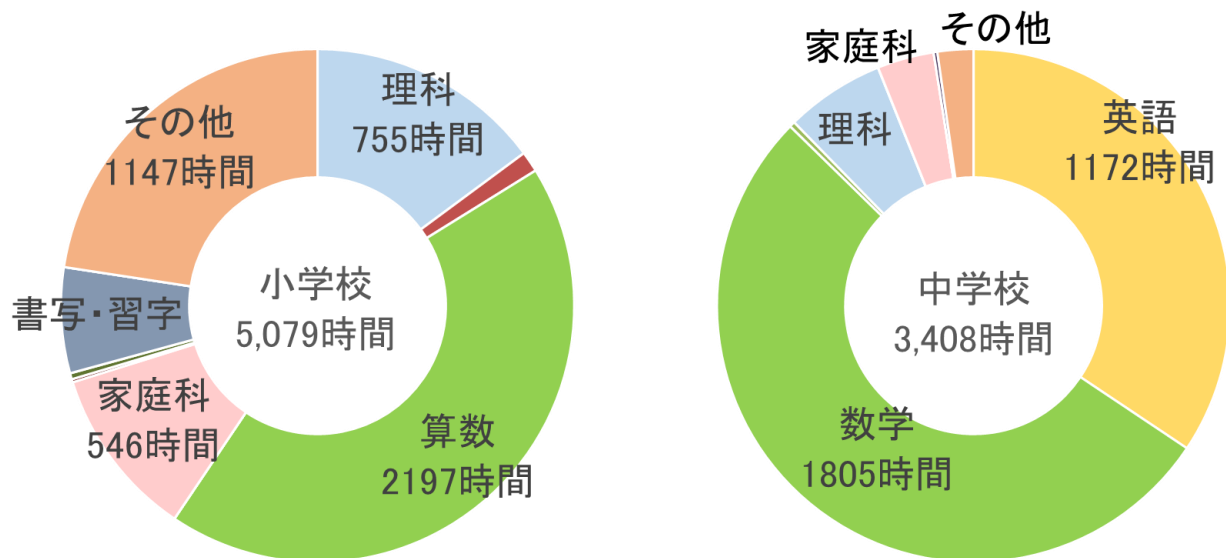


コロナに負けず頑張ろう!!

学校名	コーディネーター	コメント
柏原小	占部洋一 覆平芳恵	学校からは特に接触無し。感染増加傾向の中、学校も日々の対応に大変なことと思ひ、こちらからは後期高齢者の身でもあり敢えて積極的な接触はしないでおります。時期が来るのを忍の一字で待つ。
広瀬小	小林希世子	地域の方々にたくさん関わってもらいたいという校長先生のお考えのもと、学習以外でも地域の方々が活躍です。
水富小	山田恵一 矢野公正	100年以上の歴史を持つ小学校です。通常の算数や理科に加え、クラブ活動、福祉体験、外国人児童への学習支援も行っております。
笹井小	大野美恵	全校生徒 251 人の元気で仲の良い小学校です。3・4年生の算数授業、5年生の家庭科（ミシン） 授業の支援者、絶賛募集中 です！
入間川小	宇田川正子	突然の休校… 子供にも親にも辛い自粛期間に手も足も出せなかった学習支援です。私達が出来る活路はきっとある。
入間川東小	武田武夫	学校からの支援要請は教頭から（支援依頼書）。支援者には補助とし参加依頼する⇒先生、校長からの感謝。★今年は学校創立 50 周年を迎える。
奥富小	塩野谷守夫	新しい環境に学校挙げて工夫され、子供たちも安心して授業を受けています。常に学校との繋がりを密に、共にコロナに負けず明るい学校生活ができるように協力しています。登下校のあいさつに元気を貰っています。
新狭山小	佐藤光雄 川田みな子	新狭山小は子供たちがマスクにシールドといういでたちで学習しているようです。なかなか「お呼び」が来そうにありません。静観するのみです。
狭山台小	大竹五郎 藤森八重子	狭山台小は今年創立 10 周年を迎えバルーンリリースを予定しています。…コロナ禍を秋空に吹き飛ばす…。そんなイメージが湧いてきました。
堀兼小	庄司一之 松永圭市	堀小は各学年 2 クラスの小規模校ですが各学科で 40 名以上の支援者が見えます。算数支援は 3-6 年まで毎週 1 回 3 名で 8 年間続いています。
富士見小	近藤彰男	児童数 671 名、20 学級の大規模校です。支援は算数のサマースクール、九九暗唱習熟、懇談会時の図書室での見守り等です。
狭山台中	山田恵一 中山洸	通常は英語と数学の授業支援と、夏休み等の補習の支援を行っています。支援が再開できる日を心待ちにしています。
堀兼中	松永圭市 庄司一之 岡村道夫	本校は、市の東部に位置し、生徒数 391 名、学級数 14 の中規模校です。支援の実態は、1 年英語・数学に週 1 回の授業支援という形で実施。
山王小	太田良一	新型コロナ感染拡大、一学期 6 月から分散登校に始まり不安の中、授業再開ですが、2 学期からは従来通り理科実験支援出来ればと願う次第です。
山王中	齊藤幸男	「 数学の支援者募集 、学力の低い生徒への指導、学校以外での日常的な勉強習慣付け、今以上の学校とのコミュニケーション」を考えています。
入間川中	猪股英行 西 好次	前年度の 3 月以来、学習支援は全てストップしてしまった。10 年来、あり得なかった事態である。8/6 日、2 学期の打合せに学校へ行った。3 年生の教室の前を通りかかったら、大きな声で名前を呼んでくれて感激。
御狩場小	菅原秀子	毎週木曜日の朝自習算数の○付けしています。出来た人持ってきて、と言うと前に並び早く○を付けてもらいたいと一心です。でも、最後まで見せに来ない子に声をかけて、出来た。3 年生になってどうしているかな……。

2019年度支援実績報告

年間の支援時間は、小中学校合わせて8,487時間となりました。支援者は、実人数で319名でした。昨年度と比較して、小学校は約1,500時間減少、特に算数は支援要請が少なくなり1,200時間減少しました。一方、中学校は約750時間（数学450時間、英語300時間）増加しました。



茶レンジスクール

市内中学校8校で合計197回実施し、参加した生徒は延べ989名、支援者は延べ873名でした。台風や新型コロナウイルスの影響で、予定より支援回数が少なくなりました。

2020年度SSVC運営委員メンバーのご紹介



上段左から：諸井センター長・猪股事務局長・山田人材バンクリーダー・庄司委員
 樽林広報リーダー・安藤委員・角田情報集約リーダー・中山委員
 中段左から：大内委員（事務担当）・登坂委員（事務担当）・内野委員（事務担当）
 大邑委員（事務担当）藤森委員・木村委員
 高嶋特別プロジェクトリーダー・石井委員
 下段左から：有田委員

編集後記： 3月以来コロナ禍のため支援活動が出来なくなり、Stay Homeの毎日が早6ヶ月余になります。月一回の運営委員会はオンラインミーティングで実施し、感染防止に努めながら子供たちに逢える日が一日も早く来ることを願っています。このような状況で2か月遅れの発行となりました。原稿をお寄せいただいた方々、編集にご協力くださった皆様に感謝申し上げます。
 新型コロナウイルスの感染が一日も早く終息しますように。

Y. F